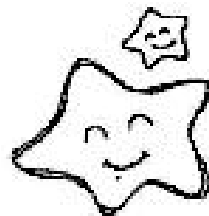


QSK にぬふあぶし

No.272

ね
子の方向の星



祝 はぴわん4周年感謝祭



宜野湾市地域活動支援センターはぴわんが
4周年を迎えました！！

★催し物その①★

- ・オープニングソング
- ・流しそうめん
- ・カキ氷
- ・グッピーすくい
- ・スイカ割り、パイン割り

★催し物その②★

- ・焼き菓子販売 / 野菜販売
- ・マジックショー
- ・沖縄の昔話(読み聞かせ)
- ・てるしの(コマまわし、三線、ヨガ)
- ・はぴわんバンド ミニコンサート

8月23日(金)夏休み最後の金曜日開催した「はぴわん祭り」には、子供から大人まで、約150名の方々がはぴわんに遊びに来てくれました。参加、ご協力して頂いた皆様ありがとうございました。これからも、はぴわんをよろしくお願ひします。

第15回 宮古地区障がい者ソフトバレーボール大会 開催します

毎年、この時期になると宮古島の皆様がざわつき始め、「バレー大会はいつ？」と聞かれるほど楽しみにしていただいています。例年、暑い8月に開催して今年も8月29日 木曜日に行う予定です。朝から夕方まで長丁場のイベント。昨年は10チーム193名のエントリーがあり、主催のふれあいプラザは、スタッフ&メンバーは当日は大会運営、審判、試合と大忙し…。

事前に『物づくり』教室として、横断幕などの掲示物を作成したり、メンバーさん総出で準備をしています。手作りの横断幕は毎年好評で、試合後の記念撮影のスポットになっています。



昨年の優勝チームは、A型事業所ビッグスマイル『ビッグスマイル GUNS』。若いメンバーが多く、小学校からバレーをやっているHさんもいて、本格的な試合を展開していました。今年も、他事業所は「打倒ビッグスマイル」で挑んでいます。

参加する各事業所は、仕事の合間を使って練習に励んでいるようです。事業所間で交流試合までしているようで本気モード。「今年うちの事業所が優勝するかも」と報告がありました。

もちろん、ふれあいプラザでも毎月『ソフトバレークラブ』として練習をしています。一般就労している方も勤務を調整して参加してくれ、「いつかは優勝を」を合言葉にがんばっています。最近では連携プレーもできるようになり、成長しているようです。

一番の課題は、体力が続くかどうか…。おそろいの紫のポロシャツでがんばってもらいましょう！！



ふれあいプラザ宮古：立岡、荻野



精神病院 つばき荘

作・くるみざわしん

演出・土屋良太

キャスト

山上 院長…土屋良太

高木 患者…川口龍

浅田 看護師…近藤結宵花



肝心なところははったらかして、いたる所ごまかしだらけ。でもこの船に乗っていれば絶対に安心なんです。何千、何万という人たちがこの船に乗って生活している。歪みは一部の人たちに押し付けられますが、見て見ぬふりを通せば気持ちよく乗り続けることができる。原祭と一緒にしょ。米軍基地とも似ている。飲み込むしかないんだ。……そう、それですよ。お気づきの通り。私たちはとてつもなく大きなものに見放され、見捨てられているんです。



<日時>

1回目 10月12日 土曜日 15時開演(14時30分開場)
2回目 10月13日 日曜日 13時開演(12時30分開場)

<場所>

パレット市民劇場 パレット久茂地9階

- 沖縄都市モノレール(ゆいレール) 県庁前駅(3分)
- バス パレットくもじ前(3分) / 県庁前(3分) / 沖銀本店前(3分)

<チケット> 全席自由

前売:2500円 当日:2900円 当事者・家族・学生:1000円

<お申込み・問い合わせ> 「つばき荘上演実行委員会」

oken@oribuyama.org (このメールで前売券申込み可能です)

くるみざわしん (劇作家・精神科医)

「北区つかこうへい劇団戯曲作法塾」「伊丹想流私塾」を経て2007年に『うどん屋』でテアトル新人戯曲賞佳作を受賞。劇団「光の領地」を旗揚げし関西を中心に上演活動を行う。2017年『精神病院つばき荘』が日本劇作家協会新人戯曲賞最終候補。『同郷同年』が2016年「日本の劇」戯曲賞、2018年OMS戯曲賞大賞を受賞。詩人としても作品を発表し、伊藤静雄賞佳作、部落解放文学賞等を受賞。



物語り

「精神病院つばき荘」は、精神科医師でもあるくるみざわしん氏の脚本による演劇です。舞台は「つばき荘」という名の精神病院。登場人物は、つばき荘院長の山上、看護師の浅田、入院歴40年の患者・高木の3名。あるとき、高木は山上院長から呼びだされ、お願いがあると頼み込まれます。原発事故で患者が避難しなければならなくなった東北の精神病院で、不十分な体制しかなかったために移動中のバスで患者が死亡するという事故があり、この事故の教訓を生かして「つばき荘」でも事故に備えた準備を整えていこうという動きが、反原発・病院改革派の栄養課職員・鈴木を中心におこります。

この動きを抑えたい理事長グループと鈴木たちのグループの間で論争がおこり、やがて患者も参加する集団会でこの問題が取り上げられることとなります。山上は、患者たちから人望がある高木に「たとえ原発事故が起こることがあっても、自分をつばき荘を離れたくない。つばき荘で死にたい」と発言してくれるようにと頼むのです。高木は、その依頼を毅然と断ります。高木を説得するどころか反論もできなくなった山上は集団会に高木が参加することを阻止するために、高木を隔離室に閉じ込める「隔離指示」を出します。

これに反発した看護師の浅田は、山上の指示には従わず、高木に「あなたの意見を集団会に届ける」と約束します。3名の議論はやがて「つばき荘」という名前の秘密や精神病院の本質を巡る話となっていきます。集団会のあと、届けられた高木の意見の影響で「つばき荘」を去る職員・患者が増えていきます。山上は理事長派からも改革派からも孤立し追い詰められていきます。山上は高木に激しく感情をぶつけますが、「あなたの正しい名前を取り戻しなさい」という高木のことにばに自分を問い直すのです。そして山上が決断したこととは……………。

推薦のことば

「精神病院つばき荘」は「精神病院」を見つめなおすところから始まる作品です。「精神病院」をたどってその本質に向かう旅は、やがて世の中の様々な不条理に私たちを出会わせます。原子力発電所、沖縄の米軍基地……。なぜ精神病院はなくなるのか、なぜ原発はなくなるのか、なぜ米軍基地は沖縄に集中するのか。この問いは一つの「とてつもなく大きいもの」に収斂していくのです。

作者のくるみざわ氏は「精神病院」と「精神病院を成り立たせているとてつもなく大きいもの」と全身全霊をかけて戦っているかのようです。それも素手で。決して楽に見ることのできない「精神病院」の現実と本質が展開されますが、物語の最後には祈りと希望が語られます。それは、登場人物のささやかな日常ですが、「とてつもなく大きなもの」に対抗する希望と祈りです。ぜひ、多くの人にこの演劇をみていただき、くるみざわ氏が灯す小さな希望をつないでいてほしいと願います。

(オリブ山病院 精神科医師・副院長 横田 泉)

第12回 全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと愛知大会

旅行期間：令和元年11月6日(水)～11月8日(金) 2泊3日

利用予定ホテル	お一人様料金(2名～3名1室)	
1日目・2日目：ドリーインEXPRESS三河安城	5名～9名参加	¥79,000
〒446-0059 愛知県安城市三河安城本町1-1-3 電話 0566-71-5489	10名～15名参加	¥64,000

●料金に含まれるもの

- ・往復航空運賃 ・マイクロバス料金 ・宿泊代(2泊) ・高速料金 ・駐車料金 ・回送料金 ・朝食(2回)
- ・会場参加費(¥3,000) ・大会弁当(¥1,000) ・懇親会(¥7,000)

●自己負担・拝観入場料 ・電車料金(2日目往復・3日目片道)

no	日付	時間	日程	食事
1	11月6日 (水)	9:25 10:25 12:25 18:00	那覇空港 国内線 スカイマークカウンター前 集合 那覇空港発 SKY552便にて 中部国際空港(セントレア)へ 中部国際空港着 貸切マイクロバス ★★★今、日本で一番 活気のある商店街 大須商店街 自由散策★ ★★★神器の1つ 草薙剣を祀る神社 熱田神宮 参拝★★★ ホテルチェックイン 【天然温泉 三洲の湯 ドリーインEXPRESS 三河安城】	昼食 懇親会
2	11月7日 (木)	10:00 11:00 12:00 13:00 14:30 15:40 18:20 20:30	ホテルにて朝食 ※三河安城駅より JR東海道本線にて 刈谷駅へ (3駅・片道 190円 約8分) 受付 刈谷市産業振興課センター オープニング アトラクション 開会式 -お弁当- 基調講演「社会でくらす当事者のため～：妊娠出産から自動車運転まで」 みんなねっと活動報告・行政報告 記念講演「ベルギーにおける地域移行について」 懇親会(アトラクション) ホテルへ ※刈谷駅より JR東海道本線にて 三河安城駅へ (3駅・片道 190円 約8分) 【天然温泉 三洲の湯 ドリーインEXPRESS 三河安城】	朝食 昼食
3	11月8日 (金)	9:00 9:30 13:00 13:15 14:00 16:05 18:30	ホテルにて朝食 ※三河安城駅より JR東海道本線にて 刈谷駅へ (3駅・片道 190円 約8分) 受付 刈谷市産業振興課センター 分科会(第1・第2・第3・第4・第5・講演会) 閉会式 貸切マイクロバス 中部国際空港へ 中部国際空港着 スカイマークにて搭乗手続き 中部国際空港発 SKY557便にて 那覇空港へ 那覇到着 ****お疲れ様でした****	朝食 昼食

※上記のスケジュールは、運輸機関の意向及び現地天候や交通事故などにより変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください
 (株)ジャンボツアーズ 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-15-10 久茂地BKビル TEL098-860-9221 FAX098-866-49

賛助会員、読者の皆さま

公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長 山田 圭吾 (公印省略)

賛助会員(2019年度)継続・加入のお願い

拝啓

ティーダカンカン、毎年のことですが、今年はとりわけ熱中症、心配です。皆さま、いかがお過ごしですか?平素より、精神保健福祉活動に、格別のご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度は九州ブロック家族大会が、沖縄で開催になります。

沖福連は、皆様の賛助会費によって運営が支えられております。変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。新規に会員になって支えてくださる方も、大歓迎、心よりお待ちしております。

同封の用紙(赤色の郵便振替用紙)に住所、氏名などをご記入の上、2019年度賛助会費のご支援をお願いいたします。

末筆ではございますが、ご多忙の折、何卒お身体ご自愛ください。 敬具

賛助会費(2019年度)	個人	1口: 2,000円
	団体・法人	1口: 10,000円

問合せ連絡先

〒901-1104 南風原町字宮平 206-1 沖福連事務局(担当:高橋)

電話:098-889-4011 FAX:098-888-5655 Email:terushino@castle.ocn.ne.jp

郵便振込口座 02020-0-37037(加入者名:公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会)

沖福連公式ホームページ

「公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会」と入力して、検索をしてみてください。URLは、下記のとおり。

<http://www.okifukuren.org/>

編集後記 熱中症には気をつけましょう。頭頂部が日焼け中。(KK)

編集:公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会 会長 山田 圭吾

〒901-1104 沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1 てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX 098-888-5665 E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行:九州障害者定期刊行物協会 〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 2-2-18

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723 定価:10円(会費に含まれる)

第62回総会 沖縄大会

日本病院・地域精神医学会

安心して病むことのできる社会

— 多様性をあるがままにともに歩いていく
チャンプルーの島沖縄で —

2019年

10月11日(金)

10月12日(土)

第1会場 沖縄県那覇市西3-11-1
沖縄県男女共同参画センター ているる

第2会場 沖縄県那覇市西3-6-1
パシフィックホテル沖縄

大会長

福治 康秀

独立行政法人 国立病院機構 琉球病院

副大会長

新垣 元

医療法人 卯の会 新垣病院

事務局長

知花 浩也

独立行政法人 国立病院機構 琉球病院

参加費

事前登録：会員 8,000円 非会員 9,000円
当日参加：会員 9,000円 非会員 10,000円
当事者・家族・学生：2,000円

演題募集期間

2019年4月5日(金)～
6月30日(日) 午後5時まで

プログラム(予定)

- 大会長講演・現地報告
福治 康秀 (独立行政法人 国立病院機構 琉球病院)
 - 特別講演
「合言葉は『ライフサポート』
～愛楽園から『看取り』を考える～」
野村 謙 (国立療養所 沖縄愛楽園 園長)
 - 沖縄大会企画
 - シンポジウム：「安心して病むことのできる社会は構築されたか」
 - 座談会：「ともに語りともに創る
沖縄から発信するミライ」
 - 交流コーナー：「現地に聞こう！どうなのイタリアの
精神保健福祉医療の実際」
 - 市民公開講座
「監置小屋が問う精神保健のいまと明日」
 - 理事会企画、一般演題、交流コーナー、夜間交流会、浜田賞
- ホームページ URL：<http://www.byochi.org/62th/>

問い合わせ先

第62回日本病院・地域精神医学会総会事務局

E-mail：627-62th-soukai@mail.hosp.go.jp
〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武7958-1
独立行政法人 国立病院機構 琉球病院内 (担当：知花・上築)
TEL：098-968-2133 FAX：098-968-2679

本学会総会は次のポイントの対象になります。

日本精神神経学会専門医 資格更新に関する研修ポイント
日本作業療法士協会 生涯教育基礎研修ポイント
日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定ポイント

大会プログラム (予定)

特別講演 野村 謙
(国立療養所 沖縄愛楽園 園長)

合言葉は『ライフサポート』 ～愛楽園から「看取り」を考える～

この世に生まれたものは、誰もがいずれ死の時を迎えます。人間にはいろいろな死の形がある事を皆さん知っていますか？中には周囲の人たちの努力で避けることができる死もあります。人生を豊かに過ごすための生きがいを手がかりにこの事を考えてみましょう。超高齢者施設のハンセン病療養所沖縄愛楽園で実践されている事例から、将来の地域医療に思いを馳せてみてください。「看取り」は大切な事ですが、特別な事ではないのです。

沖縄大会企画① シンポジウム 安心して病むことのできる社会は構築されたか

2011年11月に開催された『第54回日本病院・地域精神医学会総会』のプログラムの一つ、シンポジウム「当事者の視点～安心して病むことのできる社会～」。心の病を恐れ、自分の人生を生きていないとき人は病気になる。心の病という体験から人生をよりよく生きるための学びを獲得することが可能となるのではないかと話し合った。あれから8年が経過した。果たして「安心して病むことのできる社会」は構築されたのだろうか？偏見・誤解・差別は今も根強く残っていないだろうか？そうであるとすれば、私たちにできることは何だろうか。一人一人が立ち止まり、自分自身と対話できる機会としたい

沖縄大会企画② 座談会 ともに語りともに創る 沖縄から発信するミライ

昨今、精神病院や精神障害を有する方またその関係者や支援者を取り巻く環境は時代とともに大きく変化している。また変化をしなければならない時代（状況）にもなっている。多様化する社会（地域）や環境、精神科病院そして精神障害を持つ方へ対して、多様性のある多角的な治療・支援・サポート・サービス・リハビリテーションなどが必要となってくる。そのために連携と協働が不可欠となる。その一歩がまずは「知る」「語り合う」「つながる」ことではないだろうか。

私たちそれぞれの立場や現場でなにができるのか。この沖縄で活躍する者らの取り組みを知り、ともにミライを語り、つながり、沖縄からともにミライを提案・発信できる場をつくりたい。そこに希望があると信じています。おそらくユーモアに。そして今日からのエネルギーや一歩になるような場（機会）をつくりたい。

沖縄大会企画③ 交流コーナー 現地に聞こう！どうなのイタリアの精神保健福祉医療の実際

「イタリアは精神科病院がないんでしょ？」、「いやいや、けっこうあるらしいよ」「病院なかったら困るよね」……。イタリアの精神科病院解体のストーリーはみんな知っているが、その捉え方は様々なようだ。文化や歴史、制度が全く違うイタリアと我々が生活している地域を比べても着地点が見出しにくいというのは当然なのかもしれない。しかし、「当事者本人が住みたい場所で住み続けるにはどういう地域支援が必要なのか」という視点においてはイタリアから学ぶヒントも多いのではないだろうか。

今回は世界精神保健デーという事で、実際にイタリアのポローニャ精神保健局と学会会場をライブでつなぎ、具体的な意見交換ができる企画を提案した。机上の空論ではなく、生活レベルでの話を会場から直接ポローニャの精神保健局の担当者に通訳を介しながら行う事できる。楽しく、自由に、国際交流もしながら、精神保健福祉医療について意見交換していきたい。

※当日の通信状況により内容が変更になる場合がございます。

市民公開講座 監置小屋が問う精神保健のいまと明日

日本で唯一、沖縄北部やんばるに残る私宅監置の「牢屋（ろうや）」。遺構を保存しようと、活動が始まっている。この小屋が、沖縄戦の地獄と米軍統治下に突き落とされた沖縄の精神医療の歴史を物語るものだからだ。遺構は、「この邦に生まれたるの不幸」（呉秀三）を映す鏡であり、保存活動はこの告発に答える道でもある。

一方、「村の恥を晒すな」と地元の空気は重い。だが牢込（ろうぐみ）を恥じ、人道に反するものだとして捉えているのだから、互いの理解の前提はすでに共有されている。

“うちあたい”というウチナー口（ぐち）がある。他人に向かって発せられる言動が、自分にとっても思い当たる節があり、後ろめたい、落ち着かないという心理だが、ヨコ社会の沖縄ならではの内発的変革のキーワードではなからうか？“恥辱はすでに革命である。”

歴史を伝える小屋を残すことは、心のなかの見えない檻をも可視化する。精神保健医療の今を問い、明日の針路を照らし出す。